

食事介助について

脳卒中の後遺症や認知症などの理由から、食事介助が必要となることがあります。「食事が中々進まない」・「食事時間が延長した」・「よくむせるようになった」・「食べこぼしが多い」など、気になることはありませんか？食事介助の方法を見直す機会かもしれません。安全においしく食べられるよう、食事介助のポイントをおさえましょう。

介助のポイント

食事の介助を行う時は
正しい姿勢を心がけましょう

悪い姿勢で食事介助を行うと
誤嚥や窒息のリスクが高まります



1 介助者は横に座り
視線を同じにする



2 飲み込んだことを
確認してから、次の
ひとくちを運ぶ



3 一口量の目安は
ティースプーン一杯
※多すぎても少なすぎ
ても、食べにくい



4 はしやスプーンは
下からお口に運ぶ



5 食事に専念できる
環境を作る
カーテンを引く、静かな
環境にするなど

★ポイント★

できないところをサポートしましょう！
できるところは、本人が行うことで自立支援
につながります。急かさずに、余裕を持って
おいしく食べていただきましょう。

食事介助の目的は「患者様の安全かつ快適な食事をサポートする」ことです。食事は患者様にとって「楽しみ」の1つであり、1人1人に合わせた食事方法を提案し、患者様が笑顔で生活するための手助けになるよう援助していきましょう。

看護師 鍛田

掲示許可シール
貼付スペース